



# 創業 110 周年の地質工学エンジニア企業

—社会インフラを支える“水”の技術者集団

記者の目



- ▶ IoT、AI の活用で生産性向上
- ▶ SDGs への取り組みを加速

2021年4月で創業110年を迎える日さく。井戸を掘るさく井工事の会社としてスタートし、環境変化に対応する中で特殊土木工事や地質調査からメンテナンスまで手がけるようになった。一貫して地下水の開発を担う、業界でも数少ない存在だ。戦前から海外にも進出し、アジアから中東、中南米、アフリカと事業を広げ、衛生的な生活を送れない人たちのために安全な水を供給する。国連の持続可能な開発目標(SDGs)実現に向け、事業を通じた社会の課題解決にも取り組んでいる。

### 井戸の長寿命化で差別

日本では蛇口をひねれば当たり前のように出る水。その9割は河川などから取水し、残りの1割は井戸水を使っている。その井戸を掘って安全な水を地域の住民に届けるのが仕事だ。「掘る技術で井

戸の寿命は変わる」と若林直樹社長。いかに20年、30年と長持ちさせるか、そこにノウハウがある。

新しい井戸を掘るだけでなく、古くなった井戸のメンテナンスも重要となる。年数が経つと老朽化するため、5年に1回はメンテナンスを行う。本家を構えるさいたま市には水道に使う井戸は現在約30本あり、最も古い井戸で60年以上は使っているという。これはメンテナンスのため、人や時間をかけて井戸の寿命を長くし、住民の要望に応えている。

デジタル技術の導入も進む。センサーを用いて井戸の水位をデータで常時監視し、異常がないかを調べる。異業種企業と実証を進め、将来はIoT(モノのインターネット)サービスとして提供する計画だ。さらに人工知能(AI)の活用も計画し、井戸にカメラを入れて挿入管の劣化状況を画像からAIで分析し、井戸の故障予測などに役立てることを考えている。若林社長は「目視や人手で行っていた作業を効率化し、省人化につなげる」と、働き方改革の一環として進めているという。

日本と違って海外は家庭に水道がないばかりか、井戸を持たない地域もたくさんある。北アフリカや西アジア地域を中心に10人中3人は安全な水を自宅で得られない状況にある。それらの地域に井戸を掘れば、1日かけて川に水を汲みに行く必要がなくなる。さく

井工事の醍醐味はこうした海外の仕事で、政府開発援助(ODA)の案件を中心に手がけている。

「事業にどう結び付けるかだ」。若林社長はSDGsの取り組みについてこう言い切る。SDGs目標の6番目「安全な水とトイレを世界中に」に向け、海外でさく井を無償援助したり、現地の官庁技術者に井戸維持管理などに関する技術指導を行ったりしている。海外で井戸を何本掘るかといった目標値を設定することで、SDGsに対する社員の意識を醸成する。若林社長は「自分の仕事が社会にどう価値をもたらすかを考えていけば、新しいビジネスも創っていける」と、事業を通じた社会貢献に意欲的だ。

### 失敗を恐れず、成長の糧に

同社は理工系出身者が大半を占める技術者集団であり、特に地質調査は専門性が高いため専門外の人を採用しても本人の負担になる。この点は考慮しつつ、他の分野に関しては基本を学べば数年で立ち立ちできるようになるという。若林社長は新卒の採用基準について「人間力を重視している。人間力さえあれば専門性の不足部分はカバーできる。新しい風を吹き込んでほしい」と、学生にメールを送る。

また、社会で働く上での心構えとして「一番は失敗を恐れないこと」を挙げる。若林社長は「何か



代表取締役  
若林 直樹さん



アクアフリード工法による井戸洗浄。井戸内に注入する炭酸ガスの量をバルブで調整する(左:木下 優子さん、右:片野 美羽さん)



若林社長を囲んだ社員集合写真



ザンビアのハンドポンプ水汲み場

行動を起こして失敗してもマイナス1ではなく、絶対値としての1、つまりプラス1と考える。一番良くないのは、何もしないゼロの状態だ。重要なのは、なぜ行動して失敗したのかを考えてレベルアップ

プしていくことだ」と、「失敗のすすめ」を説く。

さく井の現場では多くの人が携わり、さまざまな問題や悩みに直面する。そのためメンター制度を導入し、若手社員に先輩社員を付

けて業務上やメンタル面を相談できる環境を整えている。

公共性が高い仕事で、責任も大きい。丁寧に教えて社員の挑戦を後押しするのは、この会社の良さだろう。

### 理系出身の若手社員に聞く

## 地下水の調査で安全を支える。社内で頼れる存在に

東日本支社 地質調査部 環境地質課 若槻 望美さん(2017年入社)

私は入社4年目で、地下水の調査を行っています。大きな工事で土を掘り起こす際、近隣住民の方々が生活で使っている地下水の水位・水質が変わってしまう可能性があります。そのため、工事による影響がないか、地下水を月1回モニタリングし、データをグラフにまとめた報告書を作成します。1年分のデータを見た時は「頑張ったな」と達成感を覚えますね。

日さくを志望したのは、もともと大学で地下水の基礎を学んでおり、水に関わる仕事を探していました。そのため、今の仕事にやりがいを感じます。後輩、特に女性技術者も増えてきたので今後の目標は「頼られる存在」になることです。



### 会社DATA

本社所在地：さいたま市大宮区桜木町4-199-3

創業：1912年4月25日

代表者：代表取締役 若林 直樹

資本金：1億円

従業員数：269名

事業内容：さく井工事、井戸メンテナンス、地下水関連設備工事、特殊土木工事、地質調査・建設コンサルタント、海外事業、井戸用設備製造・販売

URL：https://www.nissaku.co.jp/

